

生涯学習やまがた



遊学館第1研修室



豪華講師陣によるトークショー風景

CONTENTS

- ② たからびと⑤
佐藤一子さん（鶴岡市）
- ③ 特集
世代別の学びを考える -若者編- 未来を生き抜く力を育む学び
- ⑥ 地域の取組みを紹介します
寒河江市東部地区公民館・三川町公民館
- ⑦ 事業報告
地域づくり人材育成セミナー
- ⑧ information
地域学交流集会・4施設合同企画・第5回洗心庵写真コンテスト・県立図書館等大規模改修工事のお知らせ

遊学の風景／遊学館 第1研修室
山形小説家・ライター講座

“真剣かつカジュアル”
がモットーの嬉しい文学講座

1997年、直木賞作家の高橋義夫氏を講師にスタート。その後、文芸評論家の池上冬樹氏が講師兼世話役となり歩んできた自主運営の講座。文学を愛する中学生から80代の方々が集い、月1回、第一線の作家や評論家を講師に参加者の作品講評やトークショーを行います。プロ作家や文学賞受賞者も輩出し全国から注目を集めています。参加者には、遊学館の併まいや立地、併設の県立図書館による講座ゲストにあわせた展示コーナーなど複合施設ならではのサービスも好評です。

あなた やまがた たからびと

interview

佐藤一子さん NPO法人ぼらんたす理事（鶴岡市）

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は、ボランタリーをキーワードに人づくり・まちづくり・地域づくりを行うNPO法人ぼらんたすの活動のほか、長年ゴスペル活動や留学生への生活支援、環境を考えるCandle Nightのイベント等、多方面で活躍している佐藤一子さんにお話を伺います。



アフリカン・ゴスペル大好き!家族のようなメンバーと 後列右から2番目が佐藤さん

ボランティアを意識するようになりました。同じ頃、自分の身近な人の死をきっかけに自殺予防の活動をしたいと思うようになりました。活動を通して、イベント運営のお手伝いをしたり、メンバーの留学生に私生活のヘルプ、例えば買い物や通院、引っ越しのお手伝いなどをしていたんです。そしてやはりゴスペル絡みのイベントで、ぼらんたすとも出会ったのですが、その時に、私のやつていうことが立派なボランティアだと言われ、

早くに結婚し、すぐに育児が始まり、なかなか身動きが取れない中で、ゴスペルの一枚のCDに出会い、心癒されました。ある日、「ゴスペルメンバー募集の告知を見つけて、いつかやりたいと記事を大切に持ち続けていました。子どもの手が掛らなくなりゴスペルをやりたいと思った時、夫が背中を押してくれました。それから18年ゴスペルをしています。活動を通して、イベント運営のお手伝いをしたり、メンバーの留学生に私生活のヘルプ、例えば買い物や通院、引っ越しのお手伝いなどをしていたんです。そしてやはりゴスペル絡みのイベントで、ぼらんたすとも出会ったのですが、その時に、私のやつていうことが立派なボランティアだとと言われ、

ボランティアを意識するようになりました。同じ頃、自分の身近な人の死をきっかけに自殺予防の活動をしたいと思うようになりました。活動を通して、イベント運営のお手伝いをしたり、メンバーの留学生に私生活のヘルプ、例えば買い物や通院、引っ越しのお手伝いなどをしていたんです。そしてやはりゴスペル絡みのイベントで、ぼらんたすとも出会ったのですが、その時に、私のやつていうことが立派なボランティアだとと言われ、

関わるようになって、すごく幸せだったのは、気づけなかつたたくさんのことに気づけたこと。社会や地域のいろいろなことを深く考えるようになりました。自分の興味も広がって、学ぶことってたくさんある、学ぶことって楽しいつて思えるようになりました。学生の時は、勉強が嫌いで進学も考えずにすぐに就職したんですが(笑)。やらされていることじゃなくて、やりたいと思つていふことを学ぶって楽しいんですね。ボランティアもそうですが、やりたいことだからやれる。いろいろな活動に学びは広がってきていました。私のこれまでの活動や体験、感じてきたことすべてが自殺予防などの心を元気にする活動につながっています。家庭や健康のこともありますので、無理をしないことは心がけていますが、活動を通して元気になつたり、自分がくつよい場だと思っています。



自殺予防の取り組みの一つ「こころ元気サロン」で 中央奥が佐藤さん

夢の一つは「ママアフリカ」と私のことを慕ってくれる留学生メンバーだった十数人の人たちにアフリカに会いに行くこと(笑)。もう一つは、若い人たちへの就業支援です。ブラック企業やパワハラで苦しんでいたたくさんの人たちの話を聞いてきて、働いている人の権利は守られているのか?と思うのです。学校で仕事や面接の仕方は教えて、労働者の権利について学んでいるのでしょうか?専門家ではないのですが、これからそういう人たちのサポートを何かできないかと考えています。

ぼらんたすや個人の活動は簡単に成果が出るものではなく、同じことのない新しい毎日のことで、終わりのない活動だと思います。その中の失敗や喜びが次につながる原動力になっています。

大事にしているのはチャレンジ、チャンジ、スマイル!自分だけでなく皆にとつても大事なことだと思いますね。

一さつかけは育児中の一枚のCD

一チャレンジ、チャンジ、スマイル!

特 集

人生100年時代、これから予測不能で複雑性を増す社会を生き抜かなければならない若者たち。生き方や働き方が大きく変わろうとする中、戦後最大の教育改革が行われようとしています。めざすべき学びのあり方を考えるべく、山本一輝氏より寄稿していただきました。

「世代別の学びを考える－若者編－ 未来を生き抜く力を育む学び」

Idea partners 代表
山本一輝氏
やま ひとかず き

1. かつてないほど変化する社会 —これまでの常識が非常識となる時代—

いま、社会は変化が激しく、未来は予測困難であるという認識は多くの方がお持ちではないかと思います。1950年代にインターネットが誕生して以降、日本では1990年代に、Yahoo!Japanがサービスを開始、NTTドコモ「iモード」を機に携帯電話から世界中の情報にアクセスできる時代が到来。以後も進化を遂げ、生活や仕事にも大きく影響を与えてきました。そして、この10年の間にスマートフォンが私たちの暮らしに

データ、IOT、ロボットといった単語が使われ、その変化を実感せんにはいるかもしれません。これから20年は、これまでの20年を上回る早さで、より大きな変革が起きると世界中で予測されています。英オックスフォード大学でAIなどの研究を行うマイケル・A・オズボーン氏が調査で、「今後、10～20年ほどで47%の仕事が自動化されるリスクがある」と結論付けたことも有名です。世界的には人口増加のなかで、日本は先進国の中ではいち早く少子高齢化と人口減少時代に突入した

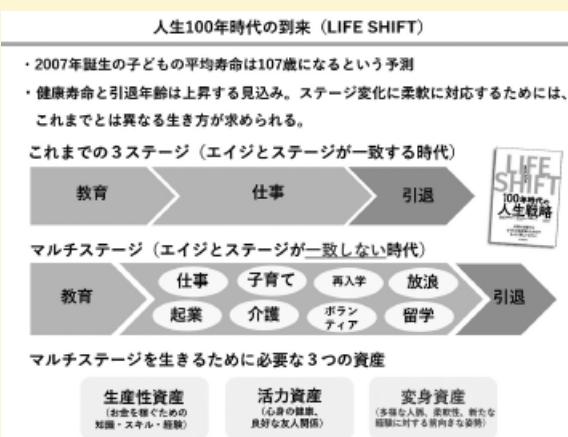
予測不能で複雑性を増す社会を生き生き方や働き方が大きく変わらうといわれようとしています。なぜか輝氏より寄稿していただきました。

一若者編一

抜く力を育む学び

Idea partners 代表 山本一輝氏

こともあり、労働人口不足を補う意味でも先端技術の積極的な活用・導入が検討されています。同時に、世界的なベストセラー『LIFE SHIFT』(リンドー・グラットン著)で指示示されるように、私たちは「人生100年時代」を迎えるました。長寿国の中日本では20、30代の多くの人が100歳近くまで生きるとされ、2000年代生まれの子どもたちはさらに長い時間を生きるともいわれています。教育・仕事・引退という年齢とステージが一致していた3ステージ制の生き方から、「一人ひとり年齢もステージも一致しないマルチステージ制に移行していきます。」

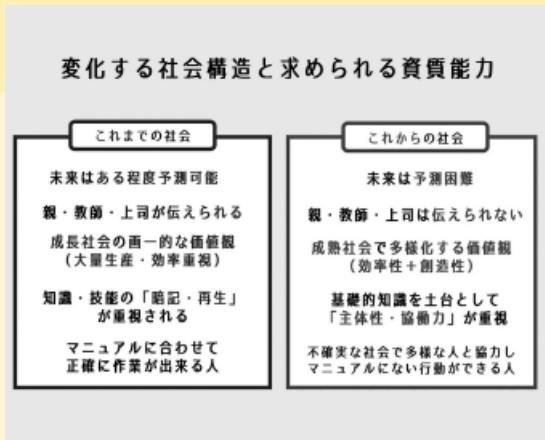


山本一輝氏
プロフィール



Idea partners 代表 プランニングディレクター、国家資格キャリアコンサルタント。1986年生まれ新潟県出身。小学校でいじめ、中学校で不登校を経験。定時制高校を経て、大学で教育心理学を専攻。リクルート入社後、東北にて大学・専門学校の支援、高校の進路講師を担当。仕事の傍ら、まちづくりや被災地域の若者のキャリア支援に携わる。2016年、人の可能性とつながりをデザインし問題解決を支援する「Idea partners」創業。各地で、教育や人材育成に関する企画・戦略の立案、地域振興や組織開発のプランニング、研修講師やファシリテーターを務める。

社会保障に対する懸念も考えれば、これまでのようになど65歳で引退を迎える、人々は自適に余生を過ごすというモデルは現実的ではありません。技術革新や人生100年時代を前にすると、これまでの常識は通用しない、下手したら非常識になるといつても過言ではないでしょう。私たち一人ひとりに求められる能力も、これまでのそれとはまったく異なります。



「これまでの社会」では変化はそれほど大きくなく、またゆっくりであったため、未来はある程度予測できました。よって親・教師・上司は過去の経験をもとに正解を伝えることができます。右肩上がりで人口も増えていったことでモノやサービスは次々に消費され、作れば売れたといわれる成長社会。そこで求められたのは効率です。いかに早く届けるかが良しとされ、言われたことを言われた通りに正確に素早くこなす人材が重宝されました。正解をもつた少數の優秀な上司と、言われたことをこなすだけのマニュアル型人間が大量にいれば上手く回った訳です。こうした人材を養成するために学校で行われてきた教育観は「暗記・再生」であり、授業で教師に言われた内容を頭に詰め込み、教科書の内容を覚え、いかに

テストでその詰め込んだ知識を「再生」し、多く正解をするか。偏差値といつものさしが私たちの優劣の基準を支配し、たくさんの中の正解を持つた者が優等生として扱われました。こうした競争を勝ち抜いたことで、望み通りの贅沢ができるといったある種の単一化された価値観に基づく「よい暮らし」を享受することができた親は、自身の被教育体験を成功体験として子どもたちに伝えてきました。しかし「これから社会」はどうでしょう。激

つていること自体の価値もなくなりました。なぜなら検索エンジンを使えば大抵のものはすぐ調べられますし、決まった答えを出す速さでは人間はAIには敵いません。このような変化を前提としたとき、「これまでの社会」で良しとされた暗記再生型の学力に偏った教育は、もはや限界と言わざるを得ません。戦後最大ともいわれる教育改革には、そうした背景があります。

2. 戦後最大の教育改革

し「これからの社会」はどうでしょう。激しい変化によって未来は予測困難となり、親・教師・上司の経験はともすると非常識にもなり得ます。唯一絶対の正解と言えるものはなくなりました。成熟社会となり多くの人の暮らしは豊かになり、「よい暮らし」に対する価値観も多様化。人口は右肩上がりで減っていき、モノやサービスは以前のように簡単には売れません。そのため効率だけでなく、新たなものや価値を生み出す創造性が不可欠です。正解がなくなつたことで上司の経験が通用しないことも当たり前となり、自らの判断でマニュアルにない行動がとれる主体性も求められます。新たなものを生み出すためには、立場や価値観の異なる人と積極的に協力していくといった協働力も求められるようになりました。知識の総量でいえば、たくさん答えを持つ

2014年12月22日、文部科学省中央教育審議会より『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について』すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～』という答申が出されました。三位一体の教育改革とも呼ばれるこの答申が出された背景には、先ほど述べた社会の変化に加え、日本の高等学校教育と大学教育のあり方に対する課題がありました。一つめは、詰め込み教育と揶揄されるように、知識技能の教授に偏り、高等学校教育によって共通して身につけるべき能力が確保されていなかつたこと。二つめは現行の大学入試の多くが従来型学力

に伴つた形で展開されており、18歳人口の減少による私立大学の定員割れも後押しし、学生確保が優先されたことで〇入試をはじめとした入試が盛んになりました。そして三つめは米国と比べ日本の大学生の学修時間は短いとされ、大学で行われる教育の多くも教員からの「方的な知識」の伝達に留まっている現状がありました。従来型学力からの脱却を果たし、高校→大学、大学→社会という発展的な学びの接続がなされ変化の激しい社会を前に100年人生を歩んでいく若者たちが、今後どのような状況においても自らの意志で学び直していける力を育むこと。そうした力とともに、多様な他者と主体的に協働していくける若者を育んでいくことが、教育改革の目的です。「これから時代」でいわれる学力の定義は、端的に言つてしまえば自ら学び続ける力です。若いも若きも学び続けていく社会、「生涯学習社会ともいえるでしょう。具体的にどのような改革が進められているのか、特に大きな変化である次期学習指導要領についてお話をします。次期学習指導要領では先述指摘した課題に対し生徒たちが「何を学ぶか」「何ができるようになるのか」という観点が加えられました。

基礎的な知識・技能を土台とし、子浪困難で正解のない社会で求められる資質・能力の涵養を目的に、学校中心主義を脱し、実社会と連携協働を行つていこうとする「社会に開かれた教育課程」という方針が打ち出されたことが大きいといえます。これについては後程触れます。特にこの「どのように学ぶか」という学び方の観点は、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)と称され、生徒たちの能動的な学びの導入が全国の各学校現場で始まっています。これはグループワークや発表といった表面的な能動性を実現することが目的ではありません。生涯に渡り、アクティブに学び続けられるアクティブラーナーをいかに養成できるかがポイントです。そうした学習を発展させていくため、正解のない問題に対し生徒自身が調査分析



出典：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の學習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)補足資料」

自らの人生を豊かにするもの」という転換です。これまでの常識が変わるのは時間かかるかもしれません、必ずや実現されるでしょう。そしてこの転換は、既に社会人となった私たちも当然当てはまることがあります。ここでいう学びは、椅子に座って受ける座学の学びに限りません。新たな土地で見たことないものと出会う等、広義なものと捉えください。技術革新や100年人生の到来に備えるために学び続けなければならないと書くと、自己責任の大変な時代になつたと不ガテイブに捉える方もいるかもしれません。しかし不安に捉える方にとっての学びの概念とは「苦行」であったからではないでしょうか。一生涯学習社会における学習とは、自らの

し、考え、自らの答えを導く探究学習が高等学校教育に設けられ学習全体の核となるのも大きな転換点といえるでしょう。こうした学習活動を通して再編される新たな教科科目を学び、新しい時代に必要な資質・能力の養成を図っていきます。この変化は、いうなれば学びという概念のそのもののパラダイム転換です。「学びは教師から与えられるものであり、我慢して取り組む苦行である」多くの方の記憶の中にある学びとは違うのであつたのではないでしょうか。改革がめざすもの、それは「学びは自ら構成していくものであり、楽しく

次期学習指導要領の中心に据えられて
いる「社会に開かれた教育課程」。学校で
学ぶことと、これから社会で求められる
ことはイコールではありません。探究学習
のような形で学校の外とつながり、若者た
ちが自らの学びを築いていくことになります
が、その際彼らにとって最も身近な社会
とは自分たちが暮らす地域といえるでしょう。
日本は課題先進国であり、さらに地域
は人口減少や高齢化などに伴う様々な問
題が山積している課題先進地。その地域で
正解のない問題を取り組む問題解決型の
学習は、これから社会に必要な力を育む

3. 学校・地域・家庭で紡ぐ学び —私たちができる!—

上では最先端の学びの場といえます。そして学びのフィールドが社会へと広がっていくからこそ、私たち一人ひとりも、彼らの学びの支援者となっていく機会が求められるようになります。指導者ではなく支援者。特別何かを教える必要はなく、彼らの興味や探究心に寄り添い、主体的な取り組みを励ます探究支援者。ファシリテーターのような存在であるべきでしょう。学びの概念が変わり、教育も親や教師を中心によってなされるものから学習者中心へと移行していくなかで、支援者として具体的に何をすべきか。それは自戒も込めて挙げるとすれば「背中を見せる」ということです。自分が学んでいないのに勉強しようと黙っていなか。自分が挑戦していないのに、挑戦する」とを勧めていない。これらは学校の外の地域、そして家庭から変えてこそ意味があります。学校、地域、家庭とこうした学びの概念の転換に伴う方向性が共有され、連携していくことが教育改革を実質的に実現するためには不可欠です。若者が生きて行くこれからの中は、これまでの社会と比べても大変困難な状況にあります。誰なるためにも、学び続ける楽しさや喜びを伝えていくことこそが、彼らの先を生きるものとしての役割であると考えています。

地域の取り組みを紹介します

このまちに
注目!

寒河江市 東部地区公民館「昭和メロディー愛好倶楽部」

『通称SMAC！お茶しながら皆で歌おう♪』

■ 内容 ■

近年、退職後に皆で集まって何かをするという機会が少なくなっているように感じます。そこで、誰でも親しみやすい歌を掲げ、あえて地区公民館事業として気軽に参加できる活動を、3年前から始めました。通称『SMAC』(スマック:事業の頭文字)は、60歳以上を対象に、5・7・9・11・12・1・2・3月の第2火曜日午前中に開催。基本姿勢は「楽しく和気藹々に」。お茶をしながら、懐かしい歌謡曲や童謡等をCDやカラオケに合わせて皆で歌います。今年は、62歳～86歳までの参加で、定員を超えて締め切らなければならぬ人気の事業です。



歌唱指導&ピアノ伴奏で歌いましょう



グループごとイントロクイズ

■ ここがうまくいった ■

運営面では、参加者同士の交流はもちろん、寒河江市芸術文化協議会加盟団体の方々を講師としてお呼びして交流を仕掛けたり、さまざまな人の意見や考えを取り入れていこうと運営委員(事前に選曲する等)を募集したりして工夫を重ねています。

■ ここが大変 ■

当初は年齢層に沿う選曲に苦労しましたが、次第に個の楽しみから皆で楽しむ意識に変化している気がします。そこで、イントロクイズや他団体とのコラボ等を取り入れ、活動にアクセントをもたらせるようにしています。

参加者

Voice

男性は少ない(1割)ですが、皆で気軽に歌う場を設けていただき嬉しいです。グループ毎に座り、いい表情で歌う人や笑顔が見られる人が多く、一体感が気に入っています。(70代、男性)

三川町 三川町公民館「フェスティバルざっこしめ」

『夏休みの思い出に伝統の川遊びを』

■ 内容 ■

毎年8月に開催している、幼稚園児及び小学校児童向けの自然体験のイベントです。危険防止等の関係から、普段はできなくなった川遊びの機会を設ける場として、主管団体である青少年育成推進員協議会を始め、色々な団体やボランティアの力を借りて行っています。町内を流れる青龍寺川の中に入り、用意したヤマメを放流して、手づかみでそれを捕まる形で、獲ったヤマメはそのまま持ち帰っていただけます。暑い夏の日に涼みながら、貴重な体験ができる行事として、町外からの参加者もいます。



青龍寺川でヤマメを獲るぞ！

■ ここがうまくいった ■

今年は特に暑さがひどかったこともあり、涼を取りつつ楽しく遊べるということで、参加した方々に楽しんでもらえました。同時に、地域の方々や親御さん同士の交流の場にもなりました。

■ ここが大変 ■

夏の暑い中の屋外イベントなので、参加者の体調管理には細心の注意を払います。今年は特に『危険』とまで言われる気温だったので、休憩用のテントや、水分補給用の飲み物を例年より多く用意し、呼びかけも頻繁に行いました。

参加者

Voice

川に入って魚をつかむのが面白かった。魚が泳ぐのが速くてすぐ逃げるので、ゆっくり近づいたり、隠れていそなところを探したりした。友達と一緒に時間が終わるまで遊んだ。(小学生)

事業報告

平成30年度地域づくり人材育成セミナー

去る7月28日(土)村山地区(山形市・遊学館)、9月1日(土)庄内地区(酒田市・東北公益文科大学)と開催された地域づくり人材育成セミナー。「官民それぞれの立場を活かした地域づくりに向け行政職員だけでなく関心の高い県民も対象に」とのねらいどおり、行政職員のほか大学職員、社会福祉協議会職員、地域おこし協力隊員、NPO職員、地域活動を始めとする地域の方まで、幅広い職種・



実践事例を踏まえた講義は説得力大

世代の方にご参加いただきました!講師は、ご当地キャラクター桃色ウサヒの中の人として有名な地域振興サポート会社まよひが

企画代表 佐藤恒平氏。

地域振興とは、地域に住んでいる人が楽しさや幸せを感じられるようにすることであり、そのための情報発信は、地域に住んでいる人の自己肯定力を高めることが目的。桃色ウサヒのプロジェクトも、ウサヒを町民みんなのアイディアで人気キャラクターに育てる楽しい体験を通して自信と誇りを生み出していくこうとするものであること。また、地域振興には、成功した地域の過程の再現を目指す主流地域振興、革新的に新しい目標を設定して目指す反主流地域振興、主流と同じ目標を設定しながら独自の過程で到達しようとする非主流地域振興があるとのこと。佐藤氏は常に非主流的な手法を模索しており、朝日町のふるさと納税のプロジェクトでは、当時高額返礼が主流だった中で、返礼額が高額ではないにもかかわらず独自のブランディングで寄付額1億円を突破したこと。地域に多々あるマイナスに捉えがちな要素を、常にプラスに捉えて物事を構築する佐藤氏の柔軟な発想やアイディアにたくさんの方に感動していただけたのです。



ゲームから学ぶワークも真剣そのもの

広報紙「生涯学習やまがた Vol.14」

①「生涯学習やまがた」を読むのは

- 初めて 時々 毎号

②どこで入手されましたか?

- 遊学館内 公民館・コミュニティセンター
- 図書館 文化施設 その他 ()

③興味を持たれた記事は何ですか? (複数回答可)

- たからびと 特集
- 地域の取り組み紹介 事業報告
- 表紙 その他 ()

④内容について

- 良い まあまあ 不満

⑤その他 ご意見・ご感想・取り上げてほしいことなどを
お聞かせください。

参加者 Voice

いろいろチャレンジ
しようと気持ちに
していただきました。
感謝!

話を聞くだけでなく、自分の頭を使つて考えたり、ボードゲームをしてみたりと、受け身ではなく、積極的に参加を促す内容だったので、楽しみながら参加できて良かったです。非常にすばらしい内容だったので、ぜひ何度も開催していただけたら幸いです。

「生涯学習やまがた」へのご意見ご感想をお聞かせください! アンケートにご協力いただいた方に、抽選で3名様に遊学館ブックス最新刊『山形の生き立ち』(1080円・平成30年12月発刊予定)をプレゼント! 締め切りは12月末です。※アンケートはがきは、お手数ですが切手を貼ってお送りください。メール、FAXでもご回答いただけます。山形県生涯学習センター広報紙担当あてにご住所・お名前・ご回答など必要事項を明記し、(FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp)へお送りください。



Information Space

文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館 4施設合同企画 一般向け

～歴史文化ゾーンを巡る2018～ 「明治150年・三島通庸没後130年 三島県令の目指したまちづくり」

4つの文化施設が集まる「歴史文化ゾーン」に新しく文化施設「gura（ぐら）」がオープン。今年はこの施設とも連携しながら、三島が目指した山形のまちづくりについて情報発信していきます。

スタンプラリー

日程 11月3日（土・文化の日）～11月25日（日）

◆文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館・gura◆

5つの施設のスタンプを集めた方へ素敵なプレゼント。

企画展示

パネル展示「県令三島通庸がつくった新県都やまがた」

日程 11月6日（火）～11月15日（木）

場所 洗心庵多目的ホール（入館無料）

講演会「明治150年 我が祖先を語る」

第一部 基調講演「山形県初代県令三島通庸と山形」
講師：小形利彦氏（歴史研究家）

第二部 鼎談「我が祖先を語る」

三島通文氏（三島通庸玄孫）・西郷吉太郎氏（西郷隆盛曾孫）・
酒井忠久氏（旧庄内藩主酒井家18代当主）・コーディネーター
寒河江浩二氏（山形新聞社長）

日程 11月22日（木）13:30～16:00

場所 文翔館議場ホール

料金 参加無料

定員 200名、申込み先着順
申込 山形県生涯学習センター（下記）管理部まで

第5回洗心庵写真コンテスト 一般向け

作品募集中！詳細は財団HPをご確認ください。

題材 洗心庵の春夏秋冬（白黒カラー可）

部門・作品形態 単写真のみ（組写真は不可）

一般の部 サイズ：四ツ切

U-18の部 サイズ：2Lサイズ以上

募集期間 11月1日（木）～平成31年1月31日（木）必着

編集後記

1枚のCDとの出会いから、学びが広がり生き方が広がった佐藤さん。始まりはいつも小さなことなのかもしれません。忙しい日々の中ですべきことに追われ、自分を見失うことがあります。やりたかったこと、気になっていることはありませんか？自分の心に聴いてみてください。どんな1歩でもよいのです。最初の1歩を踏み出すのは自分自身です。

編集発行（公財）山形県生涯学習文化財団 平成30年10月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

地域学交流集会 一般向け 関係者向け

地域学や地域づくりに関する仲間が集い、それぞれの活動や地域学のあり方を、交流しながら学びます。今年は教育現場に広がる地域学の活動に着目し、連携や共創のあり方を探っていきます。内容は「ジモト大学」に関する講話や高校生を招いてのシンポジウム等を予定。

日程 11月17日（土）13:15～16:30

会場 遊学館3階 第一研修室

料金 無料 記念品あり（要事前申込）

コーディネーター 廣瀬隆人氏（（一社）とちぎ市民協働研究会代表理事）

申込 山形県生涯学習センター（下記）へ

～県立図書館等大規模改修工事のお知らせ～

平成30年度から31年度にかけて、図書館を中心とした改修工事が行われています。現在、下記のとおり一部の研修室のみ貸館を行っております。（今後、変更等はHPでお知らせいたします。）

対象期間：平成30年9月22日～平成30年12月23日の
土曜日と日曜日のみ（毎月第3日曜日は休館日のため除く）

対象施設：第1研修室、第3研修室、和室、2Fギャラリー、託児室

※工事進捗状況等により、貸館を中止する場合があります。工事期間中のため、騒音や振動、不意の停電等が発生することも予想されます。ご理解のうえ、ご利用下さい。

郵便はがき

お手数ですが
62円切手を
お貼りください

9 9 0 0 0 4 1

山形市緑町1丁目2番36号

山形県生涯学習センター 行

ご住所 〒

お名前

ご年代 代

ご職業

※読者プレゼントを抽選で3名様にお送りします。
ご住所は正確にお書きください。